

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

平成26年度ミュージアム・マネージメント 研修会の開催報告

10月2日(木)、3日(金)の両日、道央ブロックの三笠市立博物館を会場に開催されました。

1日目(10/2)は、元長崎県職員で、現在、長崎交通監査役を勤められている藤 泉氏を講師にお迎えし、「博物館がもたらす地域への経済効果～長崎県美術館、長崎歴史文化博物館の経営戦略を事例に～」をご講演いただきました。

氏は、長崎県職員時代、都市再整備推進課の課長として、県立美術館および歴史文化博物館の設置をご担当されました。講演では、両館に導入された指定管理制度についての詳細やポイント、事業評等についてご指導いただきました。平成7年の開館以来、約10年が経ちますが、美術館では入館者数が約39万人、県の負担金が3億5千万円に対し経済波及効果は25億円、歴史文化博物館では入館者数が約45万人、県の負担金が3億5千万円に対し経済波及効果は36億円との報告がありました。そして、ミュージアム・マネージメントに求められるものとして、①政策と明確なミッション、②総合的なマネージメントとマーケティング、③事業評価、④多様な波及効果の把握と認識、⑤地域との連携であり、これらを達成するためには、社会への積極的な情報発信、人を呼び集めること、都市(まち)の機能と一つとなることなどが重要であることを述べられました。

厳しい経済状況が続く中、博物館を含む各種公共施設・文化施設の存在価値を見直す動きがあります。地域振興事業への参画や情報提供、会場の提供をはじめ、博物館が直接・間接的に経済に与える影響は少なからずあるものの、具体的データを提示して経済効果を論じる機会は少ないのが現状です。しかし、今回の講演を聞いて、しっかりとした戦略と活動を行うことで、文化活動が地域を活性化することは間違いないことを実感しました。その上で、資料の収集・保全・研究という“貯蓄活動”と、展示や普及・教育活動という“消

費活動”の収支バランスを考えることが重要であると感じました。

2日目(10/3)は、三笠ジオパークのジオツアーを体験していただきました。三笠市全域は、平成25年9月に「日本ジオパーク」に認定されています。ジオパーク(Geopark)とは、「大地の公園」として、科学的に貴重な地質遺産、歴史・文化遺産、産業遺産等を保護・保全し、それらを教育や観光活動に活かして地域社会の持続的発展を目指す活動です。三笠ジオパークでは、教育委員会部局の博物館と市長部局の商工観光課とが一緒に協議会事務局を担い、ジオパーク活動を推進しています。博物館が「貯蓄活動」を、商工観光課が全体の統括と“消費活動”を担うことで、ジオパークマネージメントを行おうとしています。

ジオツアーでは、博物館の裏手にある「野外博物館エリア」において、ジオガイドさんからジオサイト(見どころ)をご案内いただきました。このエリアは、明治19年に開鉱した幾春別炭鉱の遺構、5000万年前の地層に含まれる石炭層、そしてアンモナイトの生きていた1億年前の地層を気軽に歩いて見学できるルートで、ジオパークのモデルルートとなっています。ジオガイドさんは、かなり緊張していたようでしたが、参加者の方から「楽しかった!」との感想を頂き喜んでいた姿を見て、私もうれしく思いました。

遠方よりお越しいただいた講師の藤様をはじめ、道内全域から三笠までお越し下さった博物館関係者の皆様、大変ありがとうございました。



講師の藤 泉氏

(三笠市立博物館 主任研究員 栗原憲一)



博物館と市史編さん

星の降る里百年記念館では、平成24年度から4年間で、『新芦別市史第3巻』の編纂事務局を担ってきた。執筆を民間業者に委託し、職員が1人増員となったものの、博物館運営と並行しての業務は、当初の予想どおり厳しいものとなった。

3巻目で扱う時代は、平成5年から25年までの21年間。いわば現代史である。資料集めが思いの外はかどった反面、過去の出来事とするには時期尚早の話題もあり、どこまで表現するのか悩みました。

初めの1年は資料収集に明け暮れ、2年目は年表の作成、3年目以降は業者が提出してきた原稿の校正にかかった。とりわけ苦労したのが校正である。こちらで揃えた資料の精度にばらつきがあったことは否めないが、まちの盛衰に精通していない業者に対し、記述対象の軽重を認識してもらうことは困難を極めた。対象期間の話題すべてが文字記録として残っているわけではないため、その裏付けを取る作業が一番のヤマ場であった。

そうした作業を繰り返すうち、市史編さん業務に、博物館業務と相通ずるものがあることに気づいた。企画

展、研究論文執筆、市民向け講座の準備段階において、必要十分な情報を遺漏なく集めることは、学芸員ならば当たり前の仕事である。

一方、市史では、世相の変遷、法律の改正、政治的背景など、あらゆる分野の難解な用語が次々と出てくる。それらを正確かつ誰もが理解しやすい表現で伝えることは、実に大変である。

博物館の展示においては、語らぬモノたちに、語らしめるよう工夫が求められる。展示解説の言葉を選ぶことと、市史の言葉ひとつを厳選することは、未来へ事実を伝達するために等しく重要な作業であって、その積み重ねが「正しい歴史」を構築するのだろうと、改めて考える機会となった。



21年間で人口が8000人減少した芦別市のまち並
(星の降る里百年記念館 館長 長谷山隆博)



郷土学講座第5回自然編 『道南の自然を知る』を開催!

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、昨年度二月、函館市中央図書館との共催で「郷土学講座 第5回 自然編『道南の自然を知る』」を開催しました。

この講座は当協議会加盟館園の学芸員の研究成果の発表の場として図書館を活用し、図書館資料を利用した研究の成果を図書館・市民に還元することを目的に企画されたもので、平成22年度より毎年一回、歴史や自然誌、産業など、毎回異なるテーマで開催されてきました。

今回で5回目を数える郷土学講座では、「道南の自然を知る」というテーマで、市立函館博物館の学芸員・佐藤理夫氏と、厚沢部町土橋自然観察教育林の教育林コーディネーター・水本絵夢の二人が、郷土の自然について講演をさせていただきました。

佐藤氏は「不思議な鳥ルリビタキ」と題し、渡り鳥たちに中継地として利用される函館山で、長年行われている鳥類標識調査の成果等を発表されました。その中で、変化に富むルリビタキの羽色パターンについて、それを識別するための独自の羽毛タイプの表記方法に

ついても解説されました。

私水本は、「道南ヒバの今と昔」と題し、厚沢部町付近を自生北限とするヒバ(ヒノキアスナロ)という樹木について、非常に長寿でゆっくりと成長するヒバの独特な生態や、かつては松前藩の林業に貢献してきた歴史など、全般的なヒバの概要をご紹介します。

郷土学講座は、今年度以降も様々なテーマを設定しながら継続的に開催する予定です。内容が決定し次第、ブログ等を通して随時ご案内して参りますので、ご興味のある方は是非足をお運びください。



郷土学講座 第5回の開催風景
(厚沢部町土橋自然観察教育林 教育林コーディネーター 水本絵夢)



道北地区巡回展 雪と氷の科学者中谷宇吉郎展を開催

枝幸町資料館施設オホーツクミュージアムえさしでは、世界ではじめて人工雪の制作に成功した物理学者で北海道大学教授の故・中谷宇吉郎の生涯を写真で紹介する、道北地区博物館等連絡協議会主催の巡回展「雪と氷の科学者 中谷宇吉郎展」を2014年11月8日～12月7日の期間で開催しました。

この巡回展は、平成24年度に北海道大学で行われた中谷宇吉郎没後50年記念事業の企画展で用いられた、およそ300枚にも及ぶ写真パネルから構成されており、中谷教授の幼少期からの成長の過程や、研究に没頭する様子、研究で海外に赴き、多くの研究者と交流をする様子など、本人の素顔と生涯を良く知ることができる内容となっていました。

巡回展を観に来た来館者の中には「世界ではじめて「人工雪」を作った人が、日本の、それも北海道にいた研究者だとは知らなかった。」と驚く人もいました。また、「「研究者」というと、堅く、真面目な印象抱いていたが、パネルに付随した解説を読むと、中谷教授のユーモラスな一面を知ることができ、素顔に触れることができた気がした。」という来館者もいました。写真パネ

ルに付随した解説は、親族の方によって書かれたもので、恐らく、写真だけでは伝わりにくい、中谷宇吉郎教授の“ひとがら”そのものを伝えることができたことと思います。

この「中谷宇吉郎展」は、平成26年10月の苫前町郷土資料館を皮切りに、オホーツクミュージアムえさしは2カ所目にあたり、その後、名寄市北国博物館、士別市立博物館、剣淵町絵本の里、美深町文化会館COM100、旭川市立博物館と平成27年3月中旬まで巡回し、多くの来館者で賑いました。巡回展の開催時期が、冬期間と重なる館も多く、実際の雪を眺めながら、雪と氷に研究者生涯をかけた、中谷教授の業績と素顔に思いを馳せた来館者も多かったのではないのでしょうか。



巡回展ポスター

(オホーツクミュージアムえさし 学芸員 白井 平)



平成26年度日胆地区博物館等 連絡協議会研修会報告

平成26年11月13日～14日に、新冠町において日胆地区博物館等連絡協議会の研修会が行われました。研修会には16名の方が参加し、熱心に研究協議に取り組みました。

今回の研修テーマは、「資料の取扱いについての博物館・資料館の諸問題」を主題として実施しました。日胆地区は、大きな施設から小さな施設まで様々あり、資料の取扱いについては各館それぞれ方法が違います。この研修を通し、各館が行っている資料管理について現状や問題点を出し合い、他館がどのように資料を取り扱っているのかを知って、今後の業務に役立てることを念頭に進められました。

各学芸員が5～10分程度発表した後、事例報告として平成25年にリニューアルオープンした苫小牧市美術博物館の資料管理について、小玉学芸員から説明を受けました。さらに、意見交換をして互いに質問合ったり、新しいアイデア等を話し合いました。未整理資料や収蔵庫の不足等といった諸問題がある中、受入基準の設定や資料台帳の在り方、整理の方法など、活発な発言が取りかわされました。



新冠町で行われた研修会の様子

2日目は、新冠町郷土資料館と収蔵庫の見学をしました。その後、自然体験学習の事例として、「ツリークライミング体験」を判官館森林公園内で行いました。気温が低い中、みなさん頑張ってロープをつたいながら木登りをしていました。

2日間にわたって、研究協議、見学、野外演習と盛りだくさんの研修となり、学芸員同士とても有意義な時間を過ごせることができたと感じています。

(新冠町郷土資料館 学芸員 新川剛生)



企画展 「『くしろ』のいきもの」開催

釧路市立博物館では1月24日から4月5日まで、「『くしろ』のいきもの」と題した企画展を開催しました。この企画展では、釧路湿原をはじめとする道東の湿原に咲くクシロハナシズ、雌阿寒岳で見られるメアカンフスマなど、釧路・根室地方の地名が和名や学名につく植物・昆虫を標本と写真で紹介しました。また、釧路町十町瀬で見つかった太古の哺乳類クシロムカシバクのタイプ標本を、3分の1サイズの立体復元模型とともに展示しました。脊椎動物は道東地域特有のものは少ないため、「エゾ」とつくものを中心に紹介しました。



植物と昆虫の展示



クシロムカシバクと現世の脊椎動

釧路・根室地方は北海道内でも寒冷な地域で、氷期の遺存種と呼ばれる生物の隔離分布や独自の種分化によりこの地域特有の植物・昆虫が見られ、和名や学名に釧路・根室地域の地名が入っているものがあります。これらの生き物とともに、生き物の名前(和名と学名の違い)や生き物の分類体系についても簡単に紹介しました。また、関連行事としてクシロムカシバクの講演会と展示解説を行い、28名の方がご参加くださいました。

じっくりと展示を読み込む来館者の姿が多く見られ、地域に特化した地方博物館らしい企画展示になったのではないかと考えています。

(釧路市立博物館 学芸員 加藤ゆき恵)



平成26年度網走管内博物館 連絡協議会総括研修会開催報告

網走管内博物館連絡協議会では、平成26年11月8日、北見市の北網圏北見文化センターを会場に総括研修会を開催しました。

内容は、建築100年を迎える北見市のピアソン記念館をテーマとした同センターの企画展「ピアソン邸100年の歴史」の開催に併せた記念講演とパネルディスカッションでした。

はじめに、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所史料広報室長の芹野与幸氏より、「ピアソンとヴォーリスを結ぶ点と線～日本福音宣教の同志として～」と題し、ご講演をいただきました。アメリカ人宣教師(長老派教会)ピアソン夫妻が日本での伝道活動最後の15年間を過ごしたピアソン邸は、日本で数多くの西洋建築を手懸けた建築家W・M・ヴォーリスの設計であることが平成7年に判明しました。芹野氏によると、1900年代初頭に宣教師の間では情報ネットワークが構築されており、ピアソンとヴォーリスは施主と建築家という関係以前に交流、接点があったとのことでした。また、自分が住む地域の現状や課題を調査し、理解していたことも二人の共通点だったことを紹介され、最後に、ピアソンに関わった人脈と歴史を紐解くと、単なる古い建

物が「物語」を語る建物となり、そのことが残したいという思いにつながるのではないかとこの考えを述べられました。

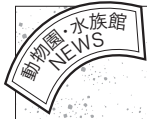
続いて「次世代に残す文化遺産として」をテーマに、北海道教育大学講師の池ノ上真一氏、北見工業大学教授の三上修一氏、北海道大学名誉教授の角幸博氏、3名のパネラーによりパネルディスカッションが行われました。各専門分野の視点から、各地の文化遺産活用の事例や道内の文化財建築物の紹介、文化財保護への提言をいただきました。

文化財を守ることは創ることであり、地域の人々が文化財に愛着を持って保全・活用に取り組むことが大切であることなど、多くを学ぶことができ、非常に有意義な研修会となりました。



講演中の芹野与幸氏

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)



大ブレイクの予感

釧路市動物園には、昨年1月15日に秋田県男鹿水属館から里帰りしたホッキョクグマの「ミルク」が、11歳になるメスの「ツヨシ」と一緒に暮らしています。

現在は、体格差があるため同時にプール付きの放飼場に展示できないので、交代で放飼場を使っています。

「ミルク」は2歳3カ月程になりますが、浮玉やガス管などを与えると、誰教えるともなく自分で、様々な遊びを開発し休むことなく遊んでいます。遊びの中では、必ずプールに玩具を投げ入れそのあとを追いかけて豪快なダイブで締め括ります。

開園直前にこっそりと覗き込むと黙々と一人遊びをしています。「ミルク」の最大の特徴はギャラリーが多い程、特に子ども達の黄色い声援が多い程遊びに力が入る点です。生まれながらのスター性を持った仔です。また、良く立ち上がり、最大10歩程は二足歩行します。恐らく日本いや世界中のホッキョクグマの中で一番のエンターテイナーだと思います。以前から市民の間では評判だったのですが、最近、動画がネットにアップされたことで、大反響が起り、マスコミ取材も増え

てきています。私自身も台湾で話題になっていたのを聞きましたし、驚くことに中国の新華社通信でも取り上げられたとか。大ブレイクの予感をひしひしと感じますし、北海道の最果ての動物園の救世主になるのではと期待が膨らんでいます。皆さんも是非「ミルク」に会いに来て下さい。

さて、日本動物園水族協会関東・東北・北海道ブロックの活動状況を報告します。

2月19日東京サンシャインシティで動物園技術者研究会が開催され、29園館53名が参加し、11項目の事例研究発表が行われ有意義に終了しました。2月16・17日の両日園館長会議が札幌市で開催されました。また、合せて旧北海道ブロック園館長会議も開催され、飼育研究会の幹事の選出や今後の会議日程が話し合われ、年間パスポート相互割引制度のポスター原稿が帯広市動物園から提供されました。

(釧路市動物園 園長 阿部友行)



遊びの天才
ホッキョクグマの『ミルク』



博物館員データベースの試み

多くの博物館では、そこにどんな学芸員がいるのか?いや、そもそもその博物館に学芸員が配置されているのかどうかすら、外から見てわからない状態にある。日本博物館協会の『博物館園職員録』には、学芸員有資格者の氏名と専門分野が掲載されるが、専門分野から学芸員を探す「検索」の機能が無く、記述も不十分だ。

この状態を解消し、「学芸員の顔が見える博物館」を増やしたいという思いが、「博物館員データベース」を作るそもそものきっかけである。

もっとも、一気に公開型データベースを作る事にはまだ課題が多い。では、学芸員部会の中だけで使える非公開データベースはどうか?北海道の博物館は、圧倒的に学芸員2名以下という小規模館が多い。これだけの人数で、歴史やら自然やら、地域に関する全ての分野を網羅するのは当然無理である。「こういう事は誰に相談すれば良いのだろうか?」と思った時、「●●博物館の▲▲さんが得意だな」という事がわかれば、とても円滑に学芸業務が進むはずだ。

そこで、自分達が日々の学芸業務で使えるデータ

ベースを作ろうと、学芸員部会にITワーキンググループが結成され、検討を続けて来た。非公開型とする分、公式な専門分野以外にも「実はこんな事に詳しい」と云った得意な事いろいろを書き込んでもらった。学芸業務では「●●学」に単純に分類できない知識や技術が(あるいはその方が)生きてくる場面が多いからである。こうして「北海道中の学芸員同士が顔が見える仕事仲間になろう」という意図のもとに設計した。

このデータベースには職名上の学芸員だけでなく、司書や事務職員など、部会に加入している博物館関係者に自由意思で参加を呼び掛けた。データベースなので、そもそもデータ提供者が少なかつたら用を為さないのが心配だったが、部会員の協力によって、まずは第一歩として踏み出せそうな情報量となった。

この春から運用を開始する予定で、現在、鋭意準備中である。運用が始まったら、使い勝手について部会員から意見を集め、更なる改良や更新を続ける。データベースの進化と共に学芸員同士の結束が強まり、緊密な連携の下に博物館活動が活性化していくものと考えている。

(帯広百年記念館 学芸調査員 持田 誠)



半世紀を迎えた帯広市児童会館

帯広市児童会館の概要

昭和39年9月に青少年科学館と児童文化センターの機能を併せ持つ社会教育施設として開館して、昨年50周年を迎えました。

開館以来、子どもたちを中心に科学展示室やプラネタリウム、科学実験などを体験してもらったり、全国的にもあまり例のない宿泊施設を備えた科学館として1泊2日の宿泊学習では、科学に関する様々な知識の習得や体験と、共同生活を送ることにより、子どもたちが創造性に富み、個人と社会の係わり合いを大切に行動できる人間形成を目指してきました。

そして、半世紀にわたる全利用者数も延べ630万人にのぼっています。

科学展示室リニューアル

昨年11月には、科学展示室をリニューアルし、科学の原理や法則を遊びながら学ぶことができるように「見て、触れて、ためす」を基本に、十勝・帯広の科学資源に目をむけた展示品を中心に入れ替えましたので、その内容を紹介します。

①とかちの自然

十勝で発見された動物化石の擬似発掘体験や、植物や昆虫をモニターに拡大投影し観察するなど十勝

の自然を知ることができるコーナーです。

②とかちのエネルギー

日射量の豊かな地域特性を活かした太陽光発電や農業王国で生まれたバイオマス発電など地域の自然を活かしたエネルギー資源を学びながら楽しめるコーナーです。

③とかちと宇宙

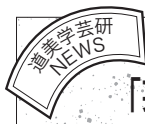
十勝には航空宇宙実験場や天文台など宇宙に深く関係している施設があることに気づき、天文のことを学びながら宇宙の不思議な魅力を体験することができるコーナーです。

このほかにも、日常の暮らしの中にある不思議を体験できる展示品もありますので、ぜひ一度見に来てください。



科学展示室

(帯広市児童会館 こども科学係長 佐藤恵子)



一木万寿三資料の寄贈と「英遠と万寿三 創作のひみつ展」での公開

滝川市美術自然史館は来年度で開館30周年を迎える、美術館と博物館の機能を併せもった公立のミュージアムです。

当初の構想では滝川出身の日本画家・岩橋英遠の作品を軸に据えた美術館でしたが、設立準備が進められていた1980年、市内空知川の川床でタキワカイギウの化石が発見・発掘され、その結果、岩橋英遠を中心とする美術部門と、タキワカイギウを中心とする自然史部門を有する施設となりました。

当館では岩橋英遠と共に、英遠の幼馴染でもある洋画家・一木万寿三の常設展示室を有しており、昨年度は作品の他、下絵、スケッチ、写真などを含む多数の一木資料の寄贈を受けました。これらの資料は今年の夏に燻蒸し、秋の企画展及び冬の収蔵品展で公開いたします。

さて、その秋の企画展ですが、平成25年度より毎年岩橋英遠と関連する展覧会を企画しておりまして、今年度は岩橋英遠と一木万寿三の友情と画業を辿る「英遠と万寿三 創作のひみつ展」(9月12日(土)～10月18日(日))を開催予定で、現在準備を進めており

ます。

岩橋英遠と一木万寿三は江部乙地区の隣同士の家で育ち(農家なので隣といっても遠いのですが)少年の頃より、共に絵を描いて育ちました。二人の交友は晩年まで続き、スケッチ旅行に連れ立ったり、互いの家に遊びに行った姿も写真に収められており、お互いの存在が励みであったことが伝わります。

現在、滝川市では江部乙地区の「最も美しい村連合」への加盟運動を実施しています。英遠と万寿三の生まれ育った滝川、江部乙。その美しい風土と共に二人の作品も後世に伝えてまいります。



一木万寿三<蝶と立像>1976とモチーフの標本

(滝川市美術自然史館 学芸員 藤本敦美)

館・園の主な展覧会と普及事業(平成27年3月～平成27年7月の行事予定)

石 狩

●札幌市青少年科学館

(問い合わせ:展示011-892-5001、天文011-892-5004)

前期3/25～4/5・後期4/11～5/6

企画展 春の特別展

「カラコロKARAKURI展」

3月～6月の日曜・祝日 【実験】日曜実験「くつつくだけじゃない!?磁石のふしぎ!」

4/11 【ワークショップ】ちびっこワークショップ
(以上、問い合わせ先:展示)

4/1～4/18 【普及事業】天文指導員募集

4/4 【観望会】皆既月食観望会

4/18 【特別投影】イブニングプラネタリウム

4/18、5/23、6/27 【観望会】科学館天体観望会

4/24・25・26、5/8・9・22・23・24、6/5・6・7・19・20

【観望会】札幌市天文台夜間公開

5/2～5/6 【観望会】木星観望会、【観望会】太陽観望会

5/23 【特別投影】プラネタリウム夜間特別投影
「ジブリ音楽特集」

(以上、問合せ先:天文 ※観望会・観望会は、雨天・曇天などの場合は中止となる場合あり。)

●北海道博物館(011-898-0466)

4/11 北海道博物館開館直前企画 館長×学芸員トーク「オープン直前! まるごと北海道博物館」

4/18～6/7 北海道博物館 第一回テーマ展「学芸員おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ」

5/30 赤れんが講座「館長講座・おすすめの一品展みどころ紹介」

6/7 ちゃれんがワークショップ「土器づくり①」

6/21 ちゃれんがワークショップ「土器づくり②」

後 志

●小樽市総合博物館(0134-33-2523)

4/4～7/3 運河館トピック展「小樽に遺された樺太の記憶・記録」

4/29～7/5 企画展「飛び出せ博物館!! 写真と歩く小樽」

4/18・19 「屋外展示車両シートはずし体験」

4/19 科学技術週間協賛イベント「模型グライダーを作って飛ばそう」、運河館トピック展ギャラリートーク「小樽に遺された樺太の記憶・記録」

4/25 自然観察会「早春の山中海岸を歩く」

4/25・26 普及行事「アイアンホース号試乗会」

4/29 普及行事「アイアンホース号運行開始」

5/3 企画展関連事業 ギャラリーウォーク
「写真と歩く手宮線」

●西村計雄記念美術館(0135-71-2525)

2/26～7/12 西村計雄 画業をたどる展覧会

「花～可憐で愛すべきもの～」

同時開催 おやかで楽しむ展覧会

「ときにはコレクターのように」

6/28 西村計雄生誕記念コンサート

渡 島

●市立函館博物館(0138-23-5480)

4/12 自然ワーク「身近な生き物を調べる」のガイダンスおよびエゾアカガエルの観察
5/10 自然ワーク「帰化植物とタンポポを調べてみよう」

5/22 講座 宇宙と天体「春の星座を見てみよう」(参加対象:小学生とその保護者)

5/24 「博物館旧一号館公開」(会場:旧函館博物館一号)

講座 体験!日本画教室

講座 古写真・古地図を歩く①

6/20 講座 親子で学ぶ「不思議な石、石灰石ー初めて学ぶ鉱物学と化学」(参加対象:小・中学生とその保護者・一般)

6/21 自然ワーク「浜辺の漂着物を調べる(合同)」

6/21 講座 地域の身近な自然を調べる「浜辺の漂着物を調べよう」(会場:博物館・大森浜(あさひ小裏)他、参加対象:小・中学生とその保護者)

4/12ほか ワークショップ(通年、10回開催)「自然観察入門講座ー自然の物知り博士をめざして」(会場:博物館、函館山ほか)

4/22・23、5/13・14・20・21・27、6/10・11

ワークショップ(通年)「古文書調査講座」

ワークショップ(通年、4回開催)「四季の星空観測講座ー函館・四季の夜空観測」

(会場:博物館・谷地頭グラウンド)

空 知

●三笠市立博物館(01267-6-7545)

3/22～5/17 企画展 北海道のアンモナイト
～コニアシアン編～

5/2～5/6 体験実習 化石レプリカ作り体験

5/3～5/6 体験実習 化石クリーニング体験

5/3～5/6 展示解説 展示解説ツアー

6/14 第1回 自然観察講座 白亜紀二枚貝の観察

上 川

●士別市立博物館(0165-22-3320)

4/26～6/14 特別企画展「鳥の鳴き声の世界
～野鳥の音声コミュニケーション」

4/29 展示解説「野鳥の鳴き声」

5/3 講座「グリーンスポーツ探鳥会」

5/5 講座「青銅鏡づくり」

6/13 講座「春の自然観察会」

十 勝

●帯広百年記念館(0155-24-5352)

4/25 博物館講座「史料からみる依田勉三・晩成社」

4/25～5/24 企画展「とかち帯広の記録展」

5/16 博物館講座「発見!十勝沖の海鳥たち」

5/24 博物館講座「ぶらり帯広」(帯広市内を散策)

| | | | |
|----------------------------|--------------------------------------|-----------|---|
| 6/6 | 博物館講座「レコードと音の文化史24」 | 4/18 | 講座「こだまみわこ作品展解説会」、講座「進藤冬華作品展解説会」、講習会「はじめての木版画」 |
| 6/20 | 博物館講座「ユーラシアの乳文化をたずねて」 | 4/25 | はくぶつかんクラブ「フェルトでつくる北の文様入り小物入れ」 |
| 網 走 | | | |
| ●北網圏北見文化センター(0157-23-6742) | | | |
| 4/4 | 観察会「皆既月食を見よう」 | 4/26 | 講座「ウイルトの昔話」 |
| 4/18~26 | 企画展示「合同作品展」 | 5/9 | はくぶつかんクラブ「土器づくり」 |
| 5/10 | 観察会「高原のミズバショウを訪ねて」 (会場:留辺蘂町) | 5/16~6/28 | ロビー展 オホーツクシリーズ8 「湧別町川西遺跡のオホーツク文化」 |
| 6月中旬 | 講座「シルクスクリーン講座」(全8回) | 5/17 | 講座「日本の国立博物館」 |
| 5/24 | 観察会「春のワッカ原生花園を訪ねて」 (会場:常呂町) | 5/30 | 講座「道立オホーツク公園・北方民族博物館施設見学会」 |
| 6/21 | 観察会「森とクリソウを訪ねて」(会場:津別町) | 5/31 | 講座 北海道博物館紀行「礼文町郷土資料館」 |
| 6/28 | 観察会「夏の自然観察会」(会場:北見市) | 6/6 | 講座「オホーツク文化の彫刻製品」 |
| ●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888) | | | |
| 4/18~5/10 | ロビー展「こだまみわこ 北の版画展」、 ロビー展「進藤冬華作品展」 | 6/13 | はくぶつかんクラブ「革で作る編みかご風ペンスタンド」 |
| | | 6/14 | 講座「発掘現場現地説明会」 |

事務局からのお知らせ

第54回北海道博物館大会、ならびに平成27年度ミュージアム・マネージメント研修会が下記の日程、会場で開催されます。なお、詳細な日程・内容等につきましては、後日改めてお知らせいたします。

■第54回北海道博物館大会

日程：平成27年7月10日（金）・11日（土）

会場：北海道開拓の村（10日、札幌市厚別区厚別町小野幌50-1）

北海道博物館（11日、札幌市厚別区厚別町小野幌53-2）

■平成27年度ミュージアム・マネージメント研修会

日程：平成27年7月11日（土）

会場：北海道博物館

■北海道博物館協会ホームページ

<http://www.hkma.jp>

当協会と加盟博物館園の情報ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載しています。

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」

<http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報・研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマにさまざまな学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、WEBサイトのほか、Facebookページ、Twitterページも開設しています。

■会費納入のお願い

当協会の活動は、会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。納入金額は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】、または【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】までお願いいたします。

（振込手数料は、ご負担下さいますようお願いいたします。）